

追加説明資料② (泉佐野丘陵緑地整備事業)

1. 事業概要	p.2
2. 事業の必要性等に関する視点	p.11
3. 事業の進捗の見込みの視点	p.41
4. コスト縮減や代替案立案等の可能性の視点	p.42
5. 特記事項	p.43
6. 対応方針	p.56

平成28年度建設事業評価(公園事業)

いずみさの きゅうりょうりよくち せいびじぎょう

泉佐野丘陵緑地整備事業

[泉佐野市]

【再評価】

(事業採択後10年間を経過した時点で継続中)

1. 事業概要

■ 公園の沿革

年月	項目
S62.12	(株) 泉佐野コスモポリス設立
(H6~	泉佐野コスモポリス事業計画の見直し)
H9.9	民事調停申立 申立人:株式会社泉佐野コスモポリス 相手方:大阪府、泉佐野市、銀行団
H10.5	民事調停成立 (⇒同社 解散)
H10.8	府土地開発公社が用地先行取得
H18.5	「泉佐野丘陵部土地利用検討委員会」設置
H18.8	同委員会より「この土地を活用できる空間とするには、都市公園事業が適している。」との提案がなされる。
H18.10	府議会で用地買戻しと基本計画等策定費についての議案成立
H19.1	「泉佐野丘陵部緑地基本計画検討委員会」設置

1. 事業概要

■ 公園の沿革

年月	項目
H19.6	基本計画に関するパブリックコメント実施
H19.10	基本計画・基本設計策定
H20.4	泉佐野丘陵緑地の「運営会議」発足
H20.6	企業グループ「大輪会」による支援が決定
H21.3	パークレンジャー養成講座 開始
H21.8	進入路造成工事に着手
H22.8	公園ボランティア「泉佐野丘陵緑地パーククラブ」 設立
H24.11	「大阪府泉佐野丘陵緑地運営審議会」 設置
H26.8	泉佐野丘陵緑地 開設（中地区12.7ha）
H27.10	泉佐野丘陵緑地への、いずみさのコミュニティバス運行開始
H27.11	「第35回緑の都市賞／内閣総理大臣賞」 受賞

1. 事業概要

位置図



○事業目的

**＝泉佐野コスモポリスの跡地の活用＝
優れた景観、豊かな環境を保全**

日根荘等の歴史的資源や自然植生、関西国際空港を一望できる景観などを保全しつつ、将来を含めた府民の貴重な財産である泉佐野丘陵部の利活用を図る。

「シナリオ型」事業スキーム

21世紀にふさわしい新しいタイプの公園づくりを目指して、計画段階から整備・管理運営まで多様な主体（府民、専門家、企業、ボランティアなど）と連携しながら、社会情勢の変化に柔軟に対応する。

つくり続ける公園

利用者にとって必要不可欠な施設のみを初期段階で設置するとともに、府民、NPO、企業等との連携・協働により、利用者ニーズや時代の要請に対応した日々進化する「つくり続ける公園」を実現する。

○上位計画

- ・大阪府公園基本構想(H5.11)
- ・大阪府都市整備中期計画(案)(H28.3改訂)

○関連計画

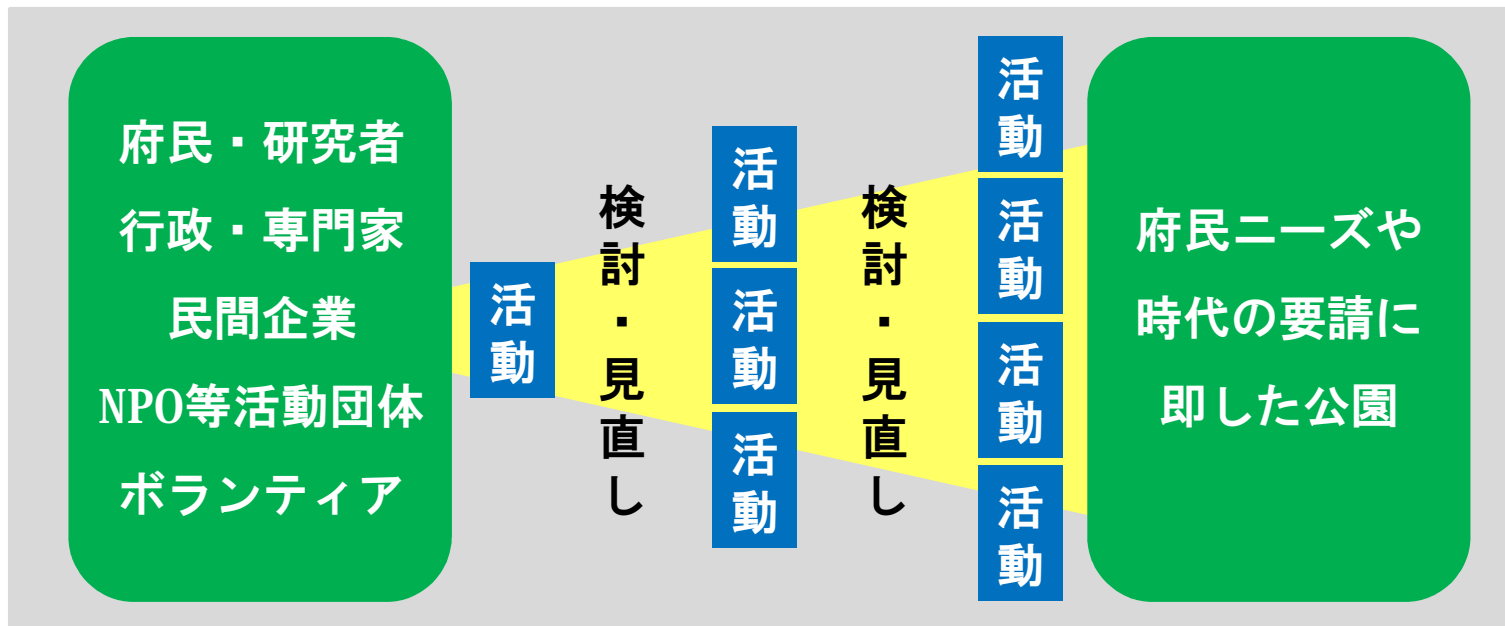
- ・泉佐野市緑の基本計画(H21.3)

1. 事業概要

■ 「シナリオ型」事業スキーム

「シナリオ型」事業スキームとは？

- 様々なジャンルの活動主体(パーククラブなど)が、明確な将来像のもとで話し合いながら活動を展開し、息長く事業を推進。将来像の実現に向けた戦略と手法を、一つの脚本(シナリオ)として共有し、そのシナリオ成果の評価と再検討を繰り返しつつ、みんなで育てる公園づくりを行う。
- 公園づくりのシナリオは、運営審議会を通じて公園づくりに参加する各主体により作成(⇔マスタープラン型)



⇒時代のニーズに対応可能な、これまでにない、日々進化する「つくり続ける公園」

1. 事業概要

平成19年度 事業採択

※ ()内の数値は事前評価時(H18)のもの

○規模

全体計画面積	74.9ha(74.5ha)
・開設済面積	12.7ha(平成27年度末)
・未開設区域面積	62.2ha

○事業費

全体事業費	175.0億円(173.4億円)
	[国:22.6億円 府:152.4億円]

(内訳)

用地費	150.3億円(148.7億円)
工事費	24.7億円(24.7億円)

○進捗状況

全体	93%	【162.7億円／175.0億円】
用地	100%	【150.3億円／150.3億円】
工事	50%	【12.4億円／24.7億円】



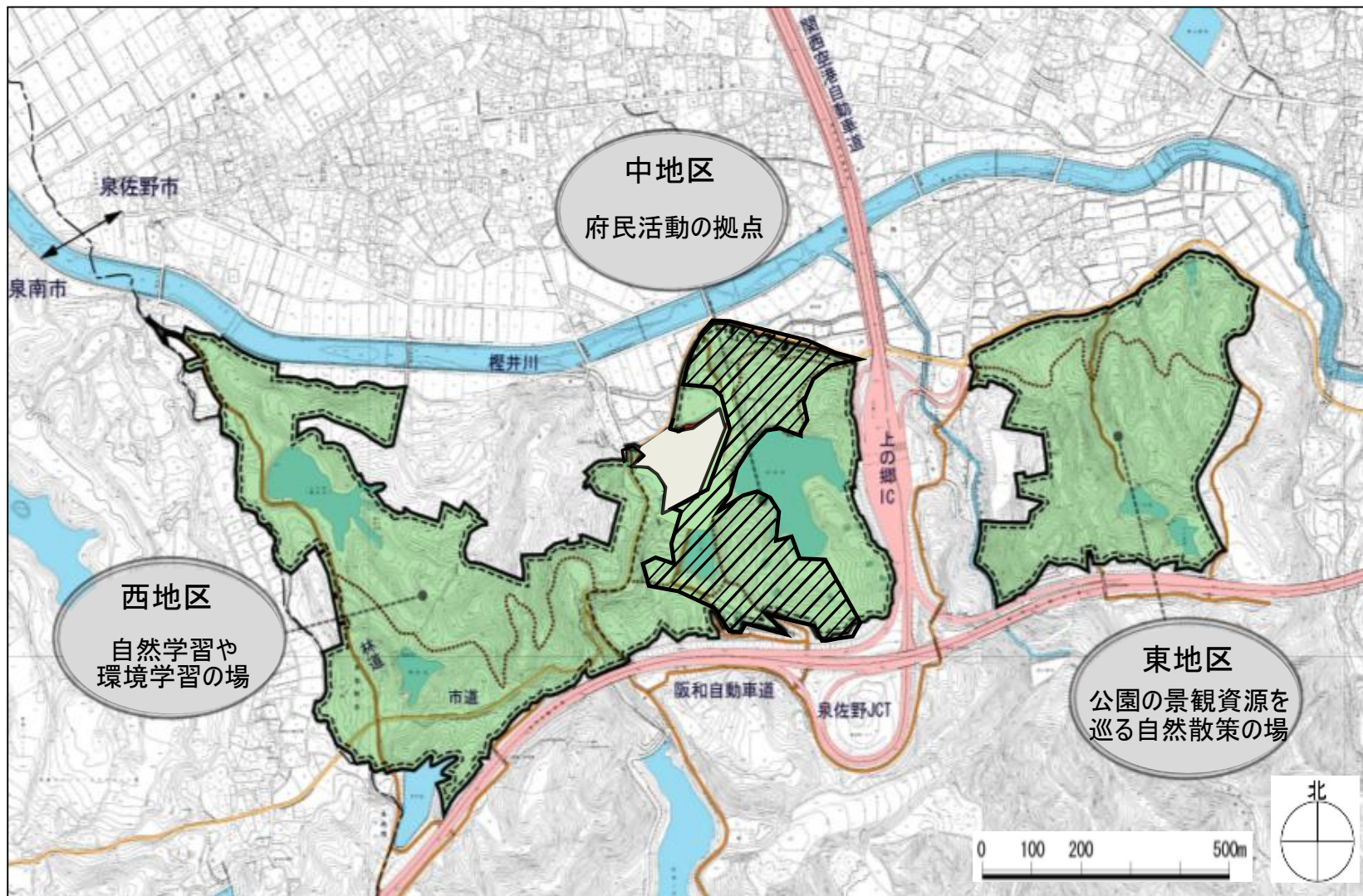
○未開設区域の主な整備予定施設

散策路、トイレ、多目的広場

○開設済区域の主な施設

パークセンター、休憩所(郷の館)、
棚田(郷の棚田、レンジャー棚田)、
レンジャー広場、水辺の広場、散策路、トイレ

1. 事業概要



全体計画面積: 74.9ha



開設済面積: 12.7ha

1. 事業概要

■ 開設済区域の概要(中地区)



1. 事業概要

■ 開設済区域の概要(中地区)



パークセンター



園路



レンジャー棚田



郷の館(休憩所)

1. 事業概要

■ 事業費

		H18～H27	H28～H40	計
用地費		150.3億円	—	150.3億円
工事費	中地区	12.4億円 ・パークセンター ・郷の館(休憩所)等	0.3億円 ・安全対策(柵等)等	12.7億円
	東地区	—	5.1億円 ・散策路、トイレ、多目的広場等	5.1億円
	西地区	—	6.9億円 ・散策路、トイレ、多目的広場等	6.9億円
	小計	12.4億円	12.3億円	24.7億円
合計		162.7億円	12.3億円	175.0億円

		H27実績	
維持管理費	3,700万円/年	<ul style="list-style-type: none"> ・草地環境整備 ・樹木管理 等 	

2. 事業の必要性等に関する視点(地元の協力体制等)

■「泉佐野丘陵緑地パーククラブ」

公園ボランティア「泉佐野丘陵緑地パーククラブ」が「つくり続ける公園」を実現する大きな原動力となっている。(会員96名)(H27年度活動:約120日)

【主な活動内容】

・公園整備

重機を極力使わず、府との協働で園路や階段等の整備を行う。

・体験型プログラム

来園者に対し、竹林管理や工作体験等のプログラムを提供する。

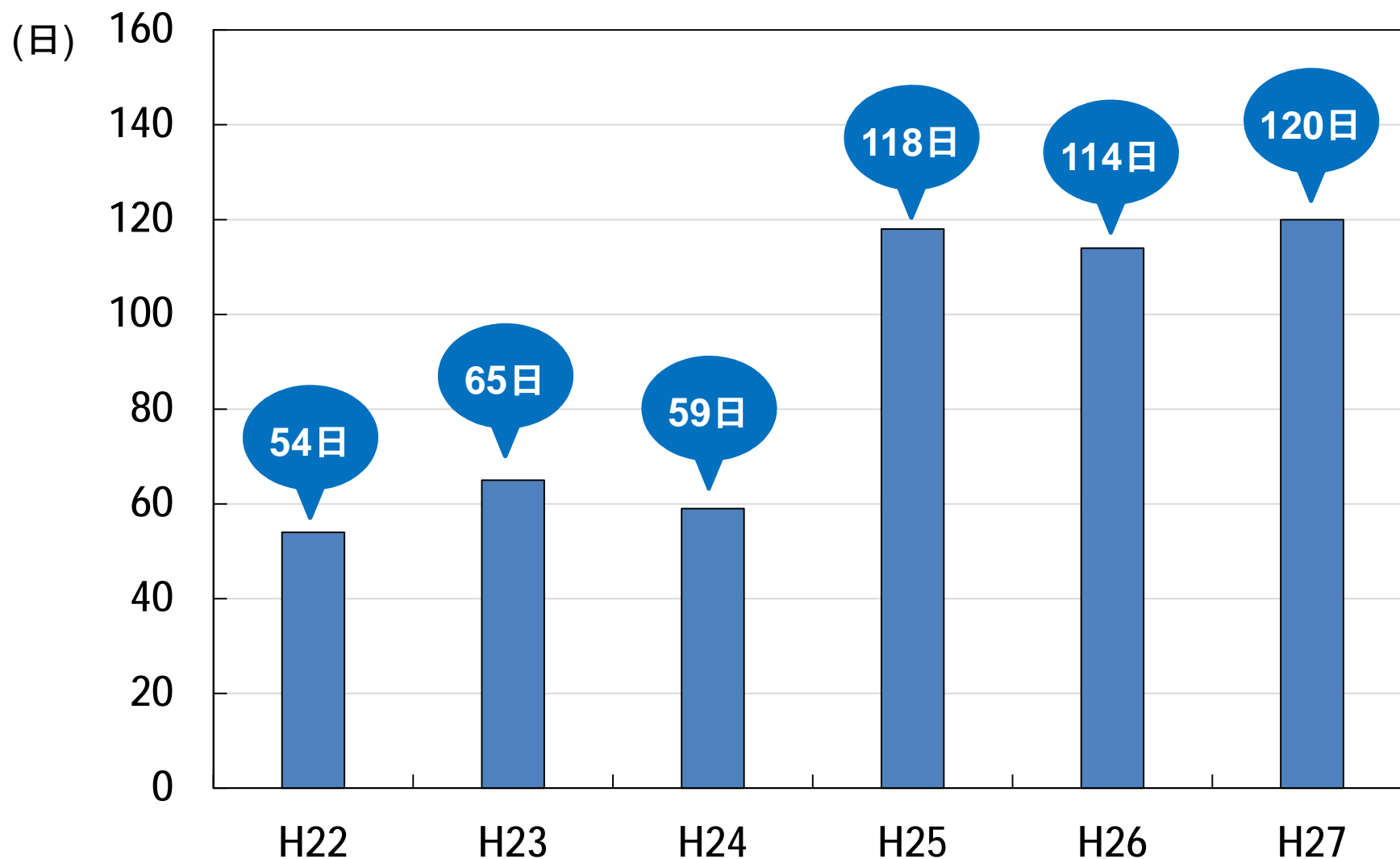
H28年度は、6チームに分かれて活動中。

- ・園路整備チーム
- ・果樹・樹木・キノコ育成チーム
- ・自然ふれあいチーム
- ・棚田チーム
- ・天神川流域チーム
- ・工作チーム



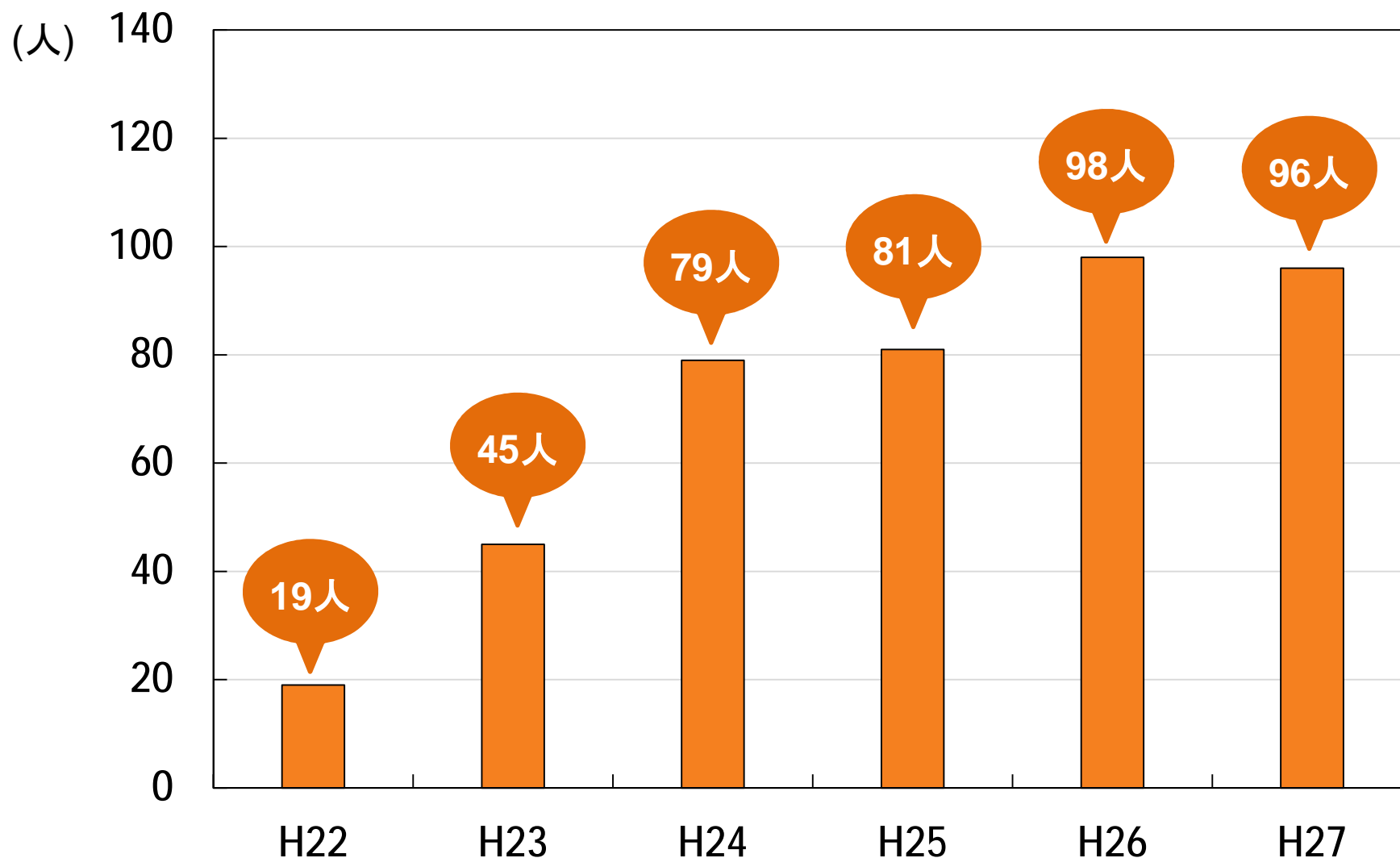
2. 事業の必要性等に関する視点(地元の協力体制等)

■「泉佐野丘陵緑地パーククラブ」の活動日数



2. 事業の必要性等に関する視点(地元の協力体制等)

■「泉佐野丘陵緑地パーククラブ」の会員数



2. 事業の必要性等に関する視点(地元の協力体制等)

■「泉佐野丘陵緑地パーククラブ」の活動内容



公園づくり(階段の設置)



調査(動植物の調査)



園内ガイド



農活動(苗代づくり)



施設の維持(柵の補修)



体験プログラム(竹林管理)

2. 事業の必要性等に関する視点(地元の協力体制等)

■「泉佐野丘陵緑地パーククラブ」による活動実績(例)



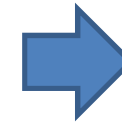
荒廃した竹林の
維持管理



竹で覆われたヤマザクラ



伐竹後の姿



花が咲いた様子

2. 事業の必要性等に関する視点(地元の協力体制等)

■「泉佐野丘陵緑地パーククラブ」による活動実績(例)



ビオトープ整備前



ビオトープ整備後(昆虫観察等に利用)



伐採前



伐採後(現在果樹園へと整備活動中)

2. 事業の必要性等に関する視点(地元の協力体制等)

■ 公募プログラム、地元市の協力

○公募プログラム

泉佐野丘陵緑地における活動を公募し、来園者へプログラムとして提供。
(H27年度活動:12件)

【プログラム例】

- ・慈眼院や日根神社等の史跡巡りと園内の散策を楽しめるウォーキングツアー
- ・ロープや安全帯を使用した木登り体験とバードコール作り
- ・秋の植物展示 など



○地元市の協力

- コミュニティバスの運行
(パークセンター前に停車)
- ・いずみさのコミュニティバス H27. 10～
 - ・観光周遊バス H27. 12～



2. 事業の必要性等に関する視点

■ 豊かな地域環境の保全

- 本事業は、泉佐野コスモポリスの跡地を、平成10年の民事調停を踏まえて府が買い戻すとともに、その優れた景観、豊かな環境を保全しつつ、将来を含めた府民の貴重な財産である泉佐野丘陵部の利活用を図るものであり、必要性に変化はない。
- 現地は竹林の拡大等が進行しつつあり、これ以上放置しておくと、みどり景観が劣化し、その機能が著しく低下することが懸念される。



2. 事業の必要性等に関する視点(費用便益分析)

■ 事業の投資効果

○公園事業の費用便益比(B/C)について

- ・改訂第3版「大規模公園費用対効果分析手法マニュアル」
(平成25年10月)により算出

便益 ○公園整備によってもたらされる価値を貨幣換算したもの

費用 ○公園整備に要する整備費(用地費+施設費)、維持管理費

$$\frac{\text{便益}}{\text{費用}} = \frac{\text{直接利用価値} + \text{間接利用価値}}{\text{整備費用} + \text{維持管理費}}$$

2. 事業の必要性等に関する視点(費用便益分析)

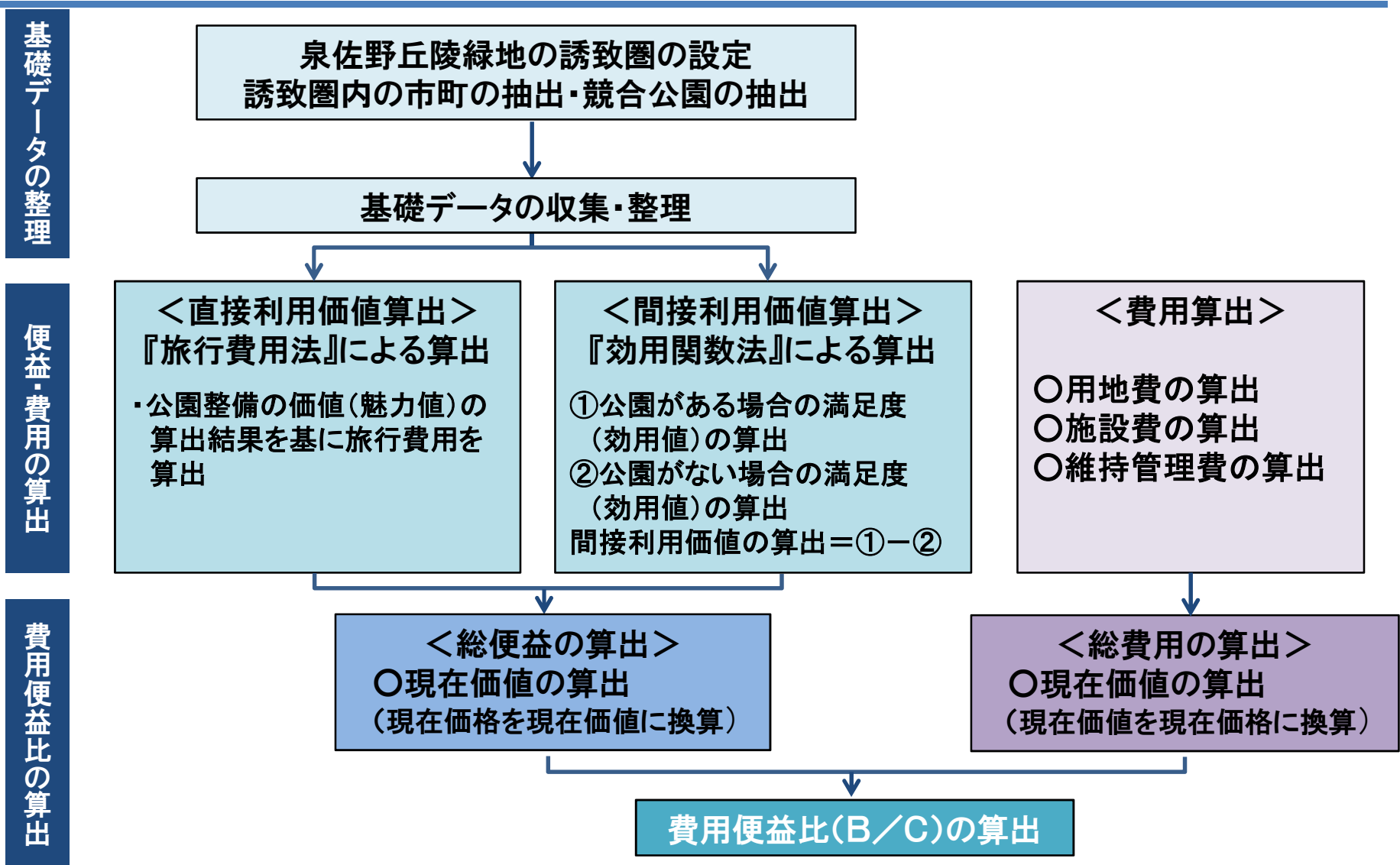
■ 公園整備によってもたらされる価値

○公園整備によって生じる価値の体系

分類		主な価値
直接利用価値		健康促進 心理的な潤いの提供 レクリエーションの場の提供 文化的活動の基礎
間接利用価値	環境	緑地の保存 動植物の生息・生育環境の保存 ヒートアイランド現象の緩和 二酸化炭素の吸収
		季節感を感じられる景観の提供 都市形態の規制
	防災	災害応急対策施設の確保(貯水槽、トイレ等) 火災延焼防止・遅延 災害時の避難場所の確保 災害時の救援活動の場の確保

2. 事業の必要性等に関する視点(費用便益分析)

■ 費用便益分析の流れ



2. 事業の必要性等に関する視点(費用便益分析)

■ 誘致圏内の市町の抽出

○抽出方法

- ・他の広域公園は、利用者の80%が15km圏内から来園していることから泉佐野丘陵緑地においても同様として、誘致圏半径を15kmと設定

公園名称	建設事業審議会審議年度	誘致圏
蜻蛉池公園	H25	15km圏域
久宝寺緑地	H26	15km圏域
服部緑地	H27	15km圏域

- ・半径15km内に役所がある市町を抽出



11市町

2. 事業の必要性等に関する視点(費用便益分析)

■ 競合公園の抽出

○抽出方法

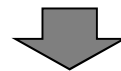
- ・半径40km圏内の公園のうち、下記条件①～③を満たす公園を抽出

※間接利用価値算出における最大圏域である40kmとした。

- ・条件① : 供用面積が10ha以上の都市公園
- ・条件② : 施設内容が競合する下記の公園種別

総合公園、運動公園、広域公園、国営公園
特殊公園(風致、動植物、歴史)

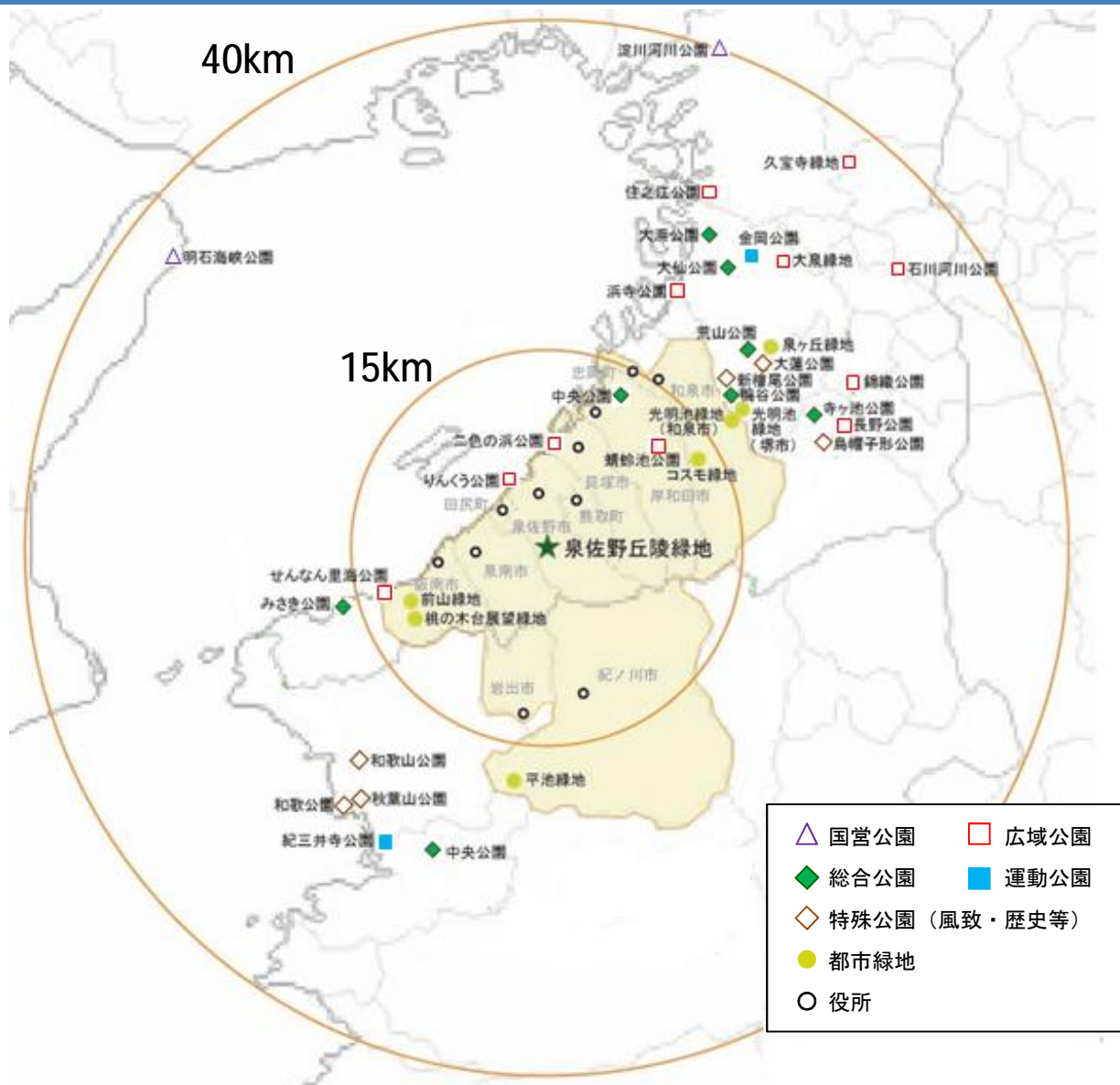
- ・条件③ : 誘致圏が11市町と重複している公園



36公園

2. 事業の必要性等に関する視点(費用便益分析)

■ 誘致圏内の市町・競合公園の抽出結果



区分	No.	公園名称	供用面積 (ha)
国営公園	1	淀川河川公園	240.2
	2	国営明石海峡公園	39.5
広域公園	3	久宝寺緑地	32.3
	4	石川河川公園	64.1
	5	住之江公園	15.1
	6	大泉緑地	99.6
	7	浜寺公園	40.7
	8	錦織公園	65.7
	9	長野公園	46.3
	10	蜻蛉池公園	53.2
	11	二色の浜公園	40.2
	12	りんくう公園	15.8
	13	せんなん里海公園	17.0
総合公園	14	大浜公園	16.3
	15	大仙公園	36.3
	16	荒山公園	17.4
	17	鵜谷公園	13.1
	18	寺ヶ池公園	13.5
	19	中央公園(岸和田市)	18.8
	20	みさき公園	33.4
	21	中央公園(海南市)	14.4
運動公園	22	金岡公園	17.7
	23	紀三井寺公園	17.2
特殊公園	24	大蓮公園	15.5
	25	新檜尾公園	11.1
	26	烏帽子形公園	10.7
	27	和歌山公園	20.5
	28	秋葉山公園	11.3
	29	和歌公園	43.7
都市緑地	30	泉ヶ丘緑地	40.4
	31	光明池緑地(堺市)	33.4
	32	光明池緑地(和泉市)	24.1
	33	コスモ緑地	22.2
	34	桃の木台展望緑地	15.0
	35	前山緑地	19.6
	36	平池緑地	13.0

2. 事業の必要性等に関する視点(費用便益分析)

■ 基礎データの収集・整理

○11市町のデータ収集

- ・11市町の人口、世帯数などの基礎データを国勢調査等より収集

○公園ごとの魅力値の算出

- ・泉佐野丘陵緑地および競合公園のそれぞれの整備内容より、利用者容量(人)を算出

$$\text{利用者容量(人)} = \text{施設規模(面積や数量)} \times \text{利用者原単位} \times \text{稼働率(サイクル)}$$

(例)

機能	利用者原単位	稼働率(サイクル)
テニスコート	4人/面	1時間/サイクル
広場(芝生・多目的)	1人/3.2m ²	2時間/サイクル

○旅行費用の算出

- ・11市町と、泉佐野丘陵緑地および競合公園間の旅行費用を算出

$$\text{旅行費用(円)} = \text{交通機関別旅行費用} \times \text{交通手段利用率} + \text{公園利用料金}$$

$$\text{交通機関別旅行費用} = \text{所要時間} \times \text{時間価値} + \text{移動費用}$$

交通機関は、徒歩、自転車、自動車、鉄道の4手段

2. 事業の必要性等に関する視点(費用便益分析)

■ 直接利用価値の算出

旅行費用法・・・「公園利用者は、公園までの移動費用をかけてまでも公園を利用する価値がある」という考えが前提のもとで、公園までの移動費用(料金、所要時間)を利用して、公園整備の価値を貨幣価値で評価する。

11市町の公園別利用選択率の算出

- ・公園の魅力値、旅行費用、有料公園に対する抵抗感から、各市町それぞれの公園別利用選択率を算出

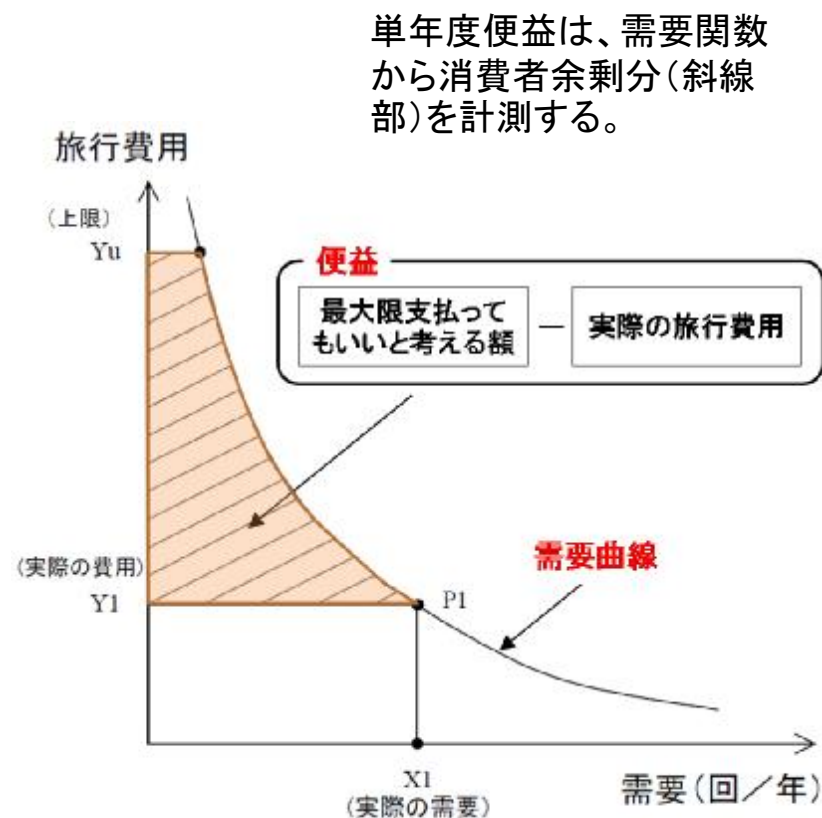
公園毎の需要量(総年間利用回数)の算出

- ・11市町の人口や年齢構成、利用選択率等から、公園(泉佐野丘陵緑地、競合公園)ごとの需要量(総年間利用回数)を算出

需要関数の導出

- ・旅行費用と需要(回/年)の関係を表す需要曲線を求める。

便益の算出



「上限値(Y_u)」・・・利用圏域内で最も旅行費用の

大きい市区町の旅行費用

2. 事業の必要性等に関する視点(費用便益分析)

■ (参考)一人あたり都市公園需要量推計式

$$d_{ik} = C \times \text{Logsum}_{ik} + \gamma \times P_i \cdots \text{<式2>}$$

ここで、 $\text{Logsum}_{ik} = \ln \left(\sum_j \exp(U_{ijk}) \right)$

P_i : ゾーン*i*の人口密度 (万人/km²)

C, γ : パラメータ

需要推計のモデル式は、

- ・ログサム値(複数の選択肢における最大効用の期待値)
- ・市区町の人口密度
- ・パラメータで構成

≪ U_{ijk} = 市区町*i*から公園*j*を利用する年齢区分*k*の効用≫

$$U_{ijk} = \alpha_1 \times \frac{\sqrt{M_j^x}}{V_{ijk}} + \alpha_2 \times \frac{\sqrt{M_j^y}}{V_{ijk}} + \alpha_3 \times \frac{\sqrt{M_j^z}}{V_{ijk}} + c \times \text{Fare}_j$$

M_j^x : 公園*j*の自然空間系の魅力

M_j^y : 公園*j*の施設系の魅力

M_j^z : 公園*j*の文化活動系の魅力

V_{ijk} : 年齢区分*k*のゾーン*i*から公園*j*までの旅行費用

Fare_j : 公園*j*の料金に対する利用抵抗 (=1:有料公園、=0:無料公園)

$\alpha_1, \alpha_2, \alpha_3, c$: パラメータ

i (市区町) : 11区分

j (公園) : 36区分

k (年齢) : 4区分

2. 事業の必要性等に関する視点(費用便益分析)

■ 間接利用価値の算出

効用関数法・・・「公園整備を行った場合と行わなかった場合の周辺世帯の持つ望ましさ(効用)の違い」を貨幣価値に換算することで公園整備を評価する。

効用値の算出

- ・11市町が泉佐野丘陵緑地・競合公園のそれぞれに対して持つ効用値を算出。
- ・効用値は、「環境」価値と「防災」価値を合わせたもの。

分類	機能	用いる基礎データ
「環境」価値	環境の維持・改善、景観の向上に役立つ価値	・公園の緑地面積 ・公園からの距離
「防災」価値	防災に役立つ価値	・公園の緑地面積 ・防災拠点の有無 ・公園からの距離

満足度の算出

- ・泉佐野丘陵緑地がない場合の個々の世帯の満足度－①
- ・泉佐野丘陵緑地がある場合の個々の世帯の満足度－②

泉佐野丘陵緑地に対する個々の世帯の便益額の算出

- ・②と①の差分より、個々の世帯の便益額を算出

便益の算出

2. 事業の必要性等に関する視点(費用便益分析)

■ (参考)効用値の算出式

$$V = a_1\sqrt{A} + a_4d^2 + a_5\delta + a_6(I - x)$$

V : 効用関数の確定項

A : 緑地面積+広場面積 (ha)

d : 公園からの距離 (km)

δ : 防災拠点機能の有無 (あり=1、なし=0)

I : 所得

x : 世帯の負担額 (円/月)

$a_1 \sim a_6$: パラメータ

《上記 $a_1 \sim a_6$ パラメータの推定》

$$P_a = \frac{\exp(\lambda V_a)}{\exp(\lambda V_a) + \exp(\lambda V_b)}$$

全国を対象にアンケートを実施。

公園aと公園bの2種類の公園整備案を提示し、どちらがより望ましいか回答を求めた。その結果をもとに、パラメータを推定

2. 事業の必要性等に関する視点(費用便益分析)

■ (参考)満足度の算出式

$$S = \frac{1}{\lambda} \ln \{ \exp(\lambda V_0) + \exp(\lambda V_a) + \exp(\lambda V_b) \}$$

S =公園aと公園bからなる選択枝の集合より得られる最大効用の期待値

V_a ……公園aの効用

V_b ……公園bの効用

V_0 ……公園を利用しないことの効用

《公園の数と満足度の関係》

○周辺に公園が全く存在しない場合

$$S_0 = V_0 = 0$$

○周辺に公園が1つだけ存在する場合

$$S_1 = \ln \{ \exp(V_0) + \exp(V_1) \} = \ln \{ 1 + \exp(V_1) \}$$

○周辺に公園が複数箇所ある場合

$$\begin{aligned} S_n &= \ln \{ \exp(V_0) + \exp(V_1) + \dots + \exp(V_{n-1}) + \exp(V_n) \} \\ &= \ln \{ \exp(S_{n-1}) + \exp(V_n) \} \end{aligned}$$

2. 事業の必要性等に関する視点(費用便益分析)

■ (参考)個々の世帯の便益額の算出式

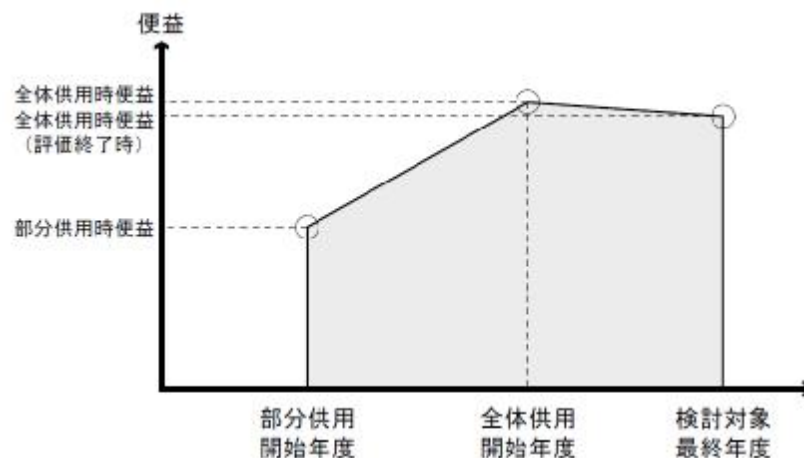
$$\text{[個々の世帯の月間便益額]} = \frac{S_n - S_{n-1}}{a_6} \quad (\text{ } a_6 \text{ は、負担金のパラメータ})$$

[各市区町全体の単年度便益額]

$$= \text{[個々の世帯の月間便益額]} \times 12\text{ヶ月} \times \text{[各市区町の世帯数]}$$

[総便益額]

$$= \text{[すべての市区町全体の単年度便益額の合算]} \times \text{プロジェクトライフ50年}$$



※部分供用、全体供用時について算出し、線形比例するものとする。

2. 事業の必要性等に関する視点(費用便益分析)

■ 泉佐野丘陵緑地の費用便益比(B/C)の算出結果

費用便益分析は、社会的割引率を用いて将来時点における便益や費用を現在の貨幣価値に換算した上で、事業期間中に発生する便益と費用の総額を算定し、費用便益比(B/C)を求めることにより行った。

	平成18年度 (前回)	平成28年度 (今回)
割引後総便益(百万円): B	43,397	26,497
割引後総費用(百万円): C	16,918	16,095
費用便益比 : B/C	2.57	1.65

★プロジェクトライフは計算実施年次より50年間とする。

★各便益、費用について、社会的割引率4%で現在(計算実施年次)価値に割引戻す。

2. 事業の必要性等に関する視点(費用便益分析)

■ 前回のB/C結果との比較(便益)

(百万円)

		平成18年度 (前回)	平成28年度 (今回)	考察(便益増減の主な要因)
直接 利用 価値	利用	6,357	8,352 (31%増)	・マニュアルの改訂による需要量(総年間利用回数)の算出方法(有料公園の抵抗値導入)などの変更により、泉佐野丘陵緑地の需要量が増加(約25万人→約35万人)し、便益額が増加
	環境	19,312	9,238 (52%減)	・マニュアルの改訂により、間接利用価値の計算方法やパラメーターが変更された影響により便益額が減少
間接 利用 価値	防災	17,728	8,907 (50%減)	
	小計	37,040	18,145 (51%減)	
合計		43,397	26,497	

2. 事業の必要性等に関する視点(費用便益分析)

■ 便益減の主な要因(効用値の算出における計算方法の変更)

【今回評価 (改訂第3版(平成25年10月))】

緑地面積+広場面積の合計値より算出

$$V = a_1\sqrt{A} + a_4d^2 + a_5\delta + a_6(I - x)$$

V : 効用関数の確定項

A : 緑地面積+広場面積(ha)

d : 公園からの距離(km)

δ : 防災拠点機能の有無(あり=1、なし=0)

I : 所得

x : 世帯の負担額(円/月)

$a_1 \sim a_6$: パラメーター

【前回評価 (改訂版(平成16年2月))】

環境、防災それぞれの価値を、下記の式から個別に計測し合算

$$V = a_1\sqrt{A_g} + a_3d^2 + a_5(I - x) \quad (\text{環境})$$

$$V = a_2\sqrt{A_o} + a_3d^2 + a_4\delta + a_5(I - x) \quad (\text{防災})$$

V : 効用関数の確定項

A_g : 緑地面積(ha)

A_o : 広場面積(ha)

d : 公園からの距離(km)

δ : 防災拠点機能の有無(あり=1、なし=0)

I : 所得

x : 世帯の負担額(円/月)

$a_1 \sim a_5$: パラメーター

2. 事業の必要性等に関する視点(費用便益分析)

■ 便益減の主な要因(効用値の算出におけるパラメーターの変更)

【前回 改訂版(平成16年2月)】			【今回 改訂第3版(平成25年10月)】			
	環境	防災		全体	環境	防災
a_1 緑地面積	0.1702219	—	減	a_1 (緑地+広場)面積	0.0234962	—
a_2 広場面積	—	0.0926051		a_2 緑地面積	—	0.1134198
a_3 距離	-0.0011911	-0.0014546	増	a_3 広場面積	—	0.0526422
a_4 防災拠点機能	—	0.7499552	減	a_4 距離	-0.0006795	-0.0011004
a_5 負担金	0.0009221	0.0007714	減	a_5 防災拠点機能	0.6070674	—
				a_6 負担金	0.0004354	0.0007764
						0.0005315

パラメーター: 全国を対象としたアンケートの結果をもとに推定

$$P_a = \frac{\exp(\lambda V_a)}{\exp(\lambda V_a) + \exp(\lambda V_b)}$$

※マニュアルで採用されているアンケートの実施年度
改訂版: 平成13年 第3版: 平成18年

2. 事業の必要性等に関する視点(費用便益分析)

■ 間接利用価値 大幅減の理由

1. 効用値の算出



2. 満足度の算出



3. 世帯の便益額の算出



4. 便益の算出

満足度の減少により、世帯の便益額が低下

※泉佐野丘陵緑地の近隣の5市町における単年度世帯便益額を確認したところ、32～54%減

【前回(改訂版(平成16年2月)の
単年度世帯便益額】

	環境	防災	全体
泉南市	3,000	2,873	5,873
田尻町	2,480	2,660	5,140
泉佐野市	2,531	2,382	4,913
熊取町	2,628	2,477	5,105
貝塚市	2,071	1,875	3,946

32%減

34%減

33%減

54%減

49%減

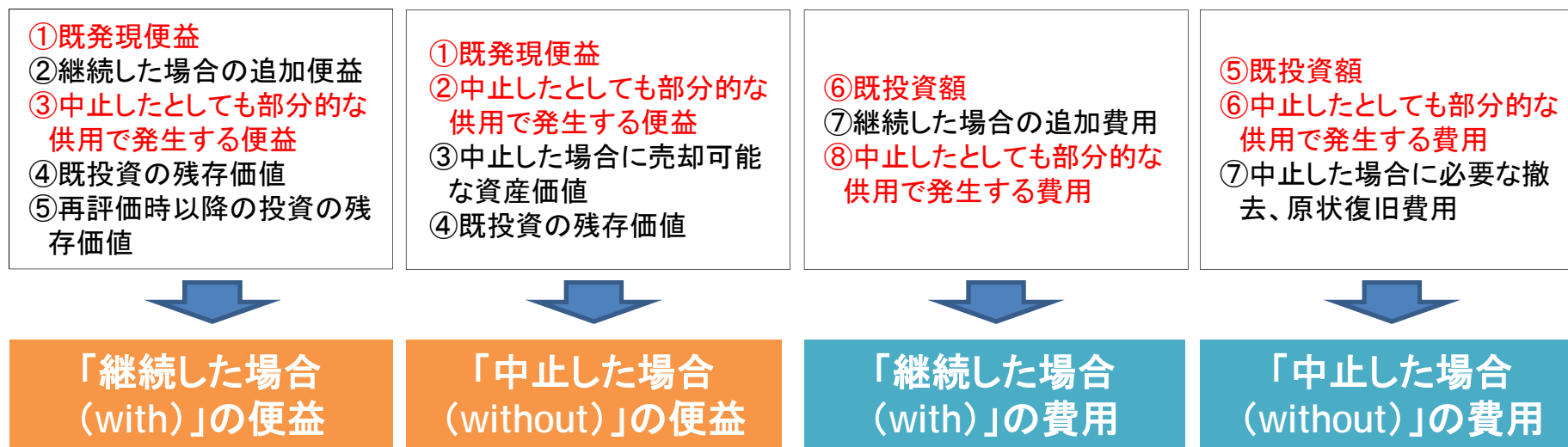
【今回(改訂第3版(平成25年10月)の
単年度世帯便益額】

	環境	防災	全体
泉南市	2,050	1,969	4,019
田尻町	1,751	1,627	3,378
泉佐野市	1,681	1,594	3,275
熊取町	1,208	1,136	2,344
貝塚市	1,029	985	2,014

2. 事業の必要性等に関する視点(費用便益分析)

■ 残事業の投資効率性の評価における費用便益分析について

・事業を「継続した場合(with)」と「中止した場合(without)」との比較を行う。



$$\frac{\text{便益}}{\text{費用}} = \frac{\text{「継続した場合(with)」の便益} - \text{「中止した場合(without)」の便益}}{\text{「継続した場合(with)」の費用} - \text{「中止した場合(without)」の費用}}$$

2. 事業の必要性等に関する視点(費用便益分析)

■ 便益

区分	項目	内容	百万円
継続 WITH	①既発現便益	再評価時(H28年度)以前の発現便益	※
	②継続した場合の追加便益	公園の追加開設区域から発生する便益	1,537
	③中止したとしても部分的な供用で発生する便益	既開設部分での便益	※
	④既投資の残存価値	開設区域及び、未供用だが買収済の用地の残存価値	15,026
	⑤再評価時以降の投資の残存価値	今後取得予定の用地の評価対象期間末時点の残存価値	0
	計		
区分	項目	内容	百万円
中止 WITH OUT	①既発現便益	再評価時(H28年度)以前の発現便益	※
	②中止したとしても部分的な供用で発生する便益	既開設部分での便益	※
	③中止した場合に売却可能な資産価値	未供用だが買収済の用地の残存価値	12,478
	④既投資の残存価値	開設区域の用地の残存価値	2,548
	計		

※相殺されるため算出していない。

2. 事業の必要性等に関する視点(費用便益分析)

■ 費用

区分	項目	内容	百万円
継続 WITH	⑥既投資額	再評価時(H28年度)以前に投資した額	※
	⑦継続した場合の追加費用	公園の追加開設を行うために発生する費用	1,274
	⑧中止したとしても部分的な供用で発生する費用	既開設部分での評価対象期間末(H77年度)までに生じる費用	※
	計		1,274

区分	項目	内容	百万円
中止 WITH OUT	⑤既投資額	再評価時(H28年度)以前に投資した額	※
	⑥中止したとしても部分的な供用で発生する費用	既開設部分での評価対象期間末(H77年度)までに発生する費用	※
	⑦中止した場合に必要な撤去、原状復旧費	中止した場合の施設の撤去や原状復旧などの費用	0
	計		0

※相殺されるため算出していない。

2. 事業の必要性等に関する視点(費用便益分析)

■ 残事業の投資効率性の評価における費用便益分析結果

・平成27年度末で事業を中止した想定で計算

$$\frac{\text{便益:B}}{\text{費用:C}} = \frac{16,563 - 15,026}{1,274 - 0} = \frac{1,537}{1,274} = 1.21$$

割引後総便益(百万円):B	1,537
割引後総費用(百万円):C	1,274
費用便益比:B/C	1.21

3. 事業の進捗の見込みの視点

- 平成19年度に用地買収は完了している。
- 中地区は、平成26年度に一部が開設し、平成30年度に全面開設を予定している。
- 残る東地区・西地区については、事業手法の見直しにより当初計画より遅れるが、平成40年度の全地区開設を予定している。

■ H40年度までの整備計画

地区	H26	～	H30	～	H33	～	H40	～
中地区	一部開設	安全対策等	全面開設	→				
東地区	散策路、トイレ、多目的広場等				全面開設	→		
西地区	散策路、トイレ、多目的広場等						全面開設	→

府民・企業との連携による整備・維持管理

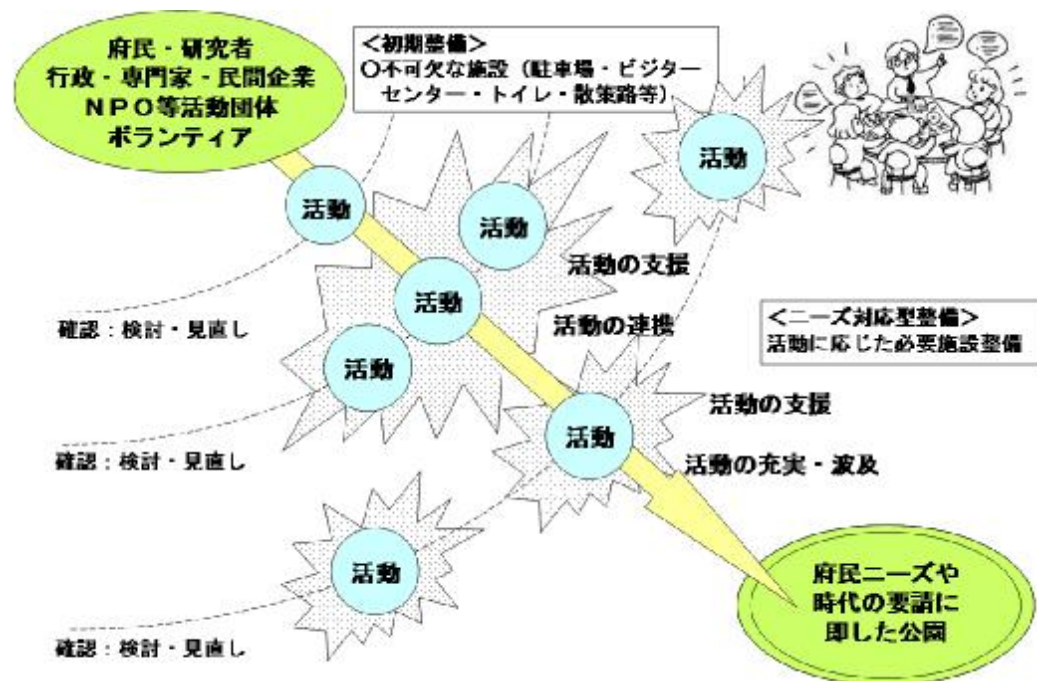
4. コスト縮減や代替案立案等の可能性の視点

【コスト縮減】

○現況の森林・竹林を保全・活用するため、施設整備は必要最小限としており、工事費については、造成工事、植栽工事、排水、電気・給水等の施設工事など、公園事業として必要な基盤となる工事であり、コスト縮減の余地はない。

【代替案】

○計画段階から整備・管理運営まで、社会情勢の変化に柔軟に対応する「シナリオ型」事業スキームを採用し、府民、NPO、企業等との連携・協働による公園づくりを実施しているため、代替案立案の余地はない。



5. 特記事項(事前評価時の意見具申(付帯意見)と府の対応)

■ 前回意見具申(付帯意見)の内容

- ・当該地域の神社等歴史的資源も活用し、文化的価値も高めていくべきでないか。
- ・当該地域で活動している青少年団体など、ソーシャルネットワークとの連携を図るべきではないか。

■ 府の対応

- ・公園の理念に「地域の活性化等に役立つ公園づくり」「シナリオ型の公園づくり」を位置付け、その理念に基づき、園内にある棚田跡の復元、日本の伝統工法である木造軸組み工法を採用したパークセンターの建築、地元の意賀美神社で行われている雅楽の出張演奏、日根神社の枕神輿や大阪府初の重要文化的景観に指定された日根荘のパネル展示、地域の料理研究部による郷土料理の紹介、民俗研究会による伝統農機具の展示・体験、観光ボランティアによる地域の民話の紙芝居や地域の史跡と園内散策を楽しむウォーキングツアーの実施、地域の子どもによる環境活動、工科高校作成の木製電気自動車の乗車体験、伝統的な大工技能を学ぶ専門学校作成の木製休憩所の展示・活用、支援学校との連携による花づくりなど、地域の伝統文化や地域活動との連携を図っている。

5. 特記事項(事前評価時の意見具申(付帯意見)と府の対応)

■ 木造軸組み工法によるパークセンターの建築



5. 特記事項(事前評価時の意見具申(付帯意見)と府の対応)

■ 地元の意賀美神社で行われている雅楽の出張演奏(郷の館にて)



■ 日根神社の枕神輿の展示(左:日根神社、右:パークセンター)



5. 特記事項(事前評価時の意見具申(付帯意見)と府の対応)

■ 地域の料理研究部による郷土料理の紹介



- ・大阪産(もん)の「じゃこごうご」
- ・水ナスの犬鳴ポーク巻き
- ・泉佐野産野菜のにゅうめん

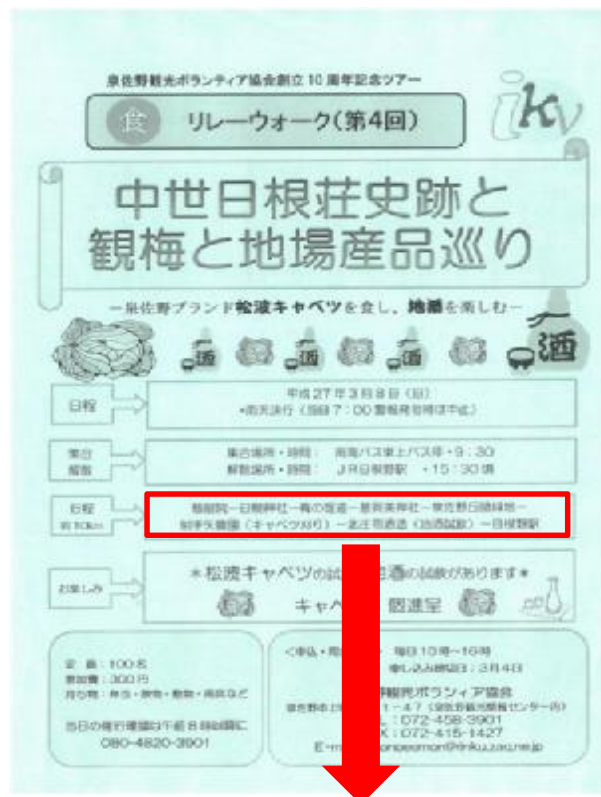
5. 特記事項(事前評価時の意見具申(付帯意見)と府の対応)

■ 民俗研究会による伝統農機具の展示・体験



5. 特記事項(事前評価時の意見具申(付帯意見)と府の対応)

■ 観光ボランティアによるウォーキングツアー



慈眼院 → 日根神社 → 梅の堤道 →
 意賀美神社 → 泉佐野丘陵緑地 →
 射手矢農園(キャベツ刈り) →
 北庄司酒造(地酒試飲) → 日根野駅



公園の概要説明



ササユリ展示と解説

5. 特記事項(事前評価時の意見具申(付帯意見)と府の対応)

■ 地域の子どもたちによる環境活動



(↑):
泉佐野丘陵緑地での活動内容を壁新聞で発表(郷の館にて)。

(↗)(→):
園内の植物を使って七夕のオーナメント作り。笹は、パークセンター内に設置。



5. 特記事項(事前評価時の意見具申(付帯意見)と府の対応)

■ 伝統的な大工技能を学ぶ専門学校作成の木製休憩所の展示・活用



5. 特記事項(事前評価時の意見具申(付帯意見)と府の対応)

■ 支援学校との連携による花づくり



(⌞)(←):
支援学校生によるヒマワリの苗づくり

(↑):
植え替え後のヒマワリ(郷の棚田にて)

5. 特記事項(その他)

■ 泉佐野丘陵緑地 運営審議会(H24.11 設置)

学識経験者、公園ボランティア、地元代表などにより構成された泉佐野丘陵緑地運営審議会を通して、運営・管理状況の評価や方針の見直しを行っており、事業の透明性の確保や、きめ細やかなPDCAを実施している。

◎構成メンバー(計11名)

学識者(緑地計画等)、専門家(協働活動)、
企業、他公園ボランティア
パーククラブ、地元市

◎役割

- 1) 公園のテーマや方針、ルールの共有
- 2) 活動プログラムの承認・調整・創出
- 3) 整備内容の承認・助言・調整・提案
- 4) パーククラブの支援
- 5) 運営・管理状況の評価や方針の見直し



現地調査



運営審議会の様子

5. 特記事項(その他)

■ 泉佐野丘陵緑地 運営審議会の審議概要(H27年度)

審議内容	第1回 (5/27)	第2回 (7/29)	第3回 (10/1)	第4回 (12/2)	第5回 (2/1)	第6回 (3/10)
プログラム活動報告	【毎回実施】 月毎のプログラム活動の報告・活動内容への助言 等					
持ち込み型 プログラム (参考:P17)	応募内容の審査		実施報告・評価		実施報告・評価	
	H27前期		H27後期			
公園整備計画 ・ 整備方法 ・ 公園活用	公園愛称募集		企業の森活動の展開		公園の評価・利用者層の拡大	
	未開設区域の整備の方向性・具体的内容・整備後の活用方法					
	・谷口池西側エリア		・水辺の広場周辺 ・パークセンター北側		・向井池東側エリア ・向井池北側エリア	

5. 特記事項(その他)

■「土木学会関西支部／技術賞部門賞」 受賞(H27.5)

受賞者:大阪府岸和田土木事務所

地域、企業、行政との協働による公園づくりを通して、府民サービスの向上、地域の活性化、企業の社会参画等を促す仕組みづくりを構築したことを「喜ばれる技術」として評価され、平成26年度土木学会関西支部 技術賞部門賞を受賞した。



会場の様子



賞状



表彰楯



賞状授与

5. 特記事項(その他)

■「第35回緑の都市賞／内閣総理大臣賞」受賞(H27.11)

受賞者：泉佐野丘陵緑地パーククラブ、大輪会

市民ボランティア、それを支援する企業グループ、行政が連携した公園づくりを進めている先駆的事例として評価され、「第35回緑の都市賞／内閣総理大臣賞」を受賞した。

※緑の都市賞とは・・・

緑の保全、創出活動に卓越した実績と成果をあげている活動団体に贈られる顕彰制度。(主催：公益財団法人都市緑化機構)



副大臣からの賞状授与



賞状(左)とトロフィー(右)



緑の都市賞授賞式の様子

6. 対応方針

対応方針(原案):事業継続

<判断の理由>

- ・本事業は、泉佐野コスモポリスの跡地を、平成10年の民事調停を踏まえて府が買い戻すとともに、その優れた景観、豊かな環境を保全しつつ、将来を含めた府民の貴重な財産である泉佐野丘陵部の利活用を図るものであり、必要性に変化はない。
- ・21世紀にふさわしい新しいタイプの公園づくりを目指して、計画段階から整備・管理運営まで、社会情勢の変化に柔軟に対応する「シナリオ型」事業スキームを採用し、府民、NPO、企業等との連携・協働により「つくり続ける」公園として事業中である。
- ・現地は竹林の拡大等が進行しつつあり、これ以上放置しておくとも、みどり景観が劣化し、その機能が著しく低下することが懸念される。

以上の理由から、事業を継続する。